

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木克宗

事業名	ぎふなんぶおうだん 岐阜南部横断ハイウェイ 国道21号坂祝バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：岐阜県加茂郡坂祝町勝山 至：岐阜県各務原市鵜沼東町		延長	4.3km			
事業概要	坂祝バイパスは、岐阜南部の中核都市である岐阜市・大垣市・各務原市・美濃加茂市を連絡し、東海北陸自動車道、東海環状自動車道をはじめ、一般国道22号、156号等の幹線道路と一体になって地域の骨格を形成する延長約40kmの岐阜南部横断ハイウェイの一部として位置づけられ、現21号の交通渋滞緩和と安全な交通の確保を目的として計画された延長7.6kmの道路です。						
H2年度事業化	S61年度都市計画決定		H6年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費	350億円		事業進捗率	43%		供用済延長	0km
計画交通量	43,300台/日						
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.8 (残事業) 6.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 152/340億円 (事業費：131/320億円 維持管理費：20/20億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 945/945億円 (走行時間短縮便益：849/849億円 走行費用減少便益：84/84億円 交通事故減少便益：13/13億円)	基準年 平成16年			

事業の効果等
・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の改善が期待）
他8項目に該当

関係する地方公共団体等の意見
坂祝バイパスは、高規格道路と連携し広域的ネットワークを形成することにより、地域振興プロジェクトを支援し社会経済活動を活性化させることが期待されており、各務原市をはじめとする関係8市6町の首長で構成される国道21号・22号及び岐阜南部横断ハイウェイ整備促進期成同盟会より早期整備の要望（平成16年9月3日）を受けている。

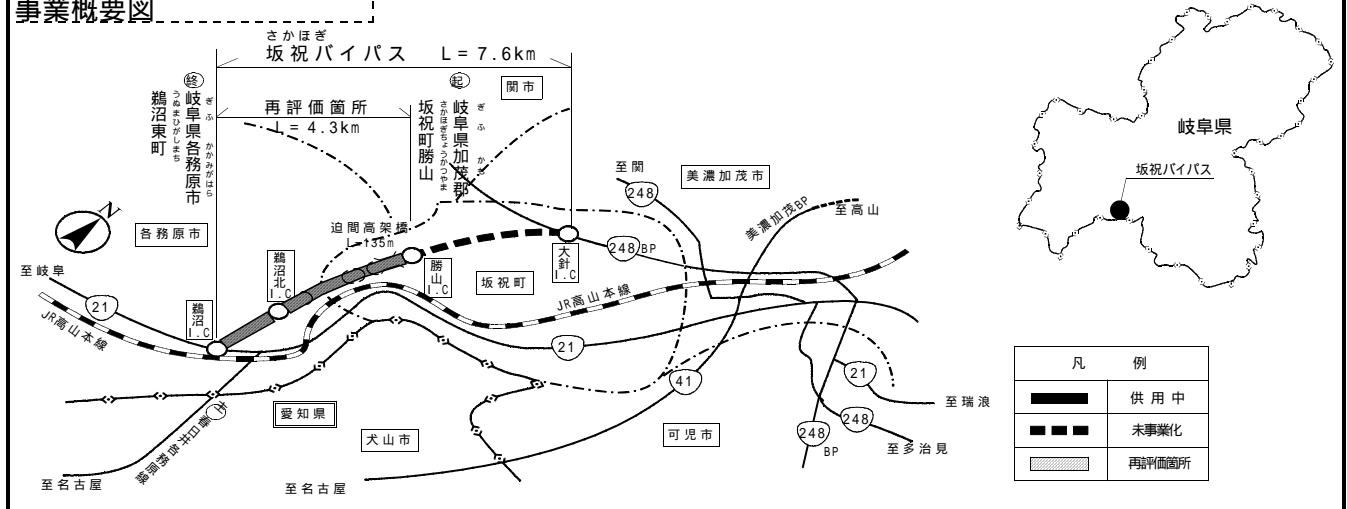
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等
・広域交通から取り残された地域
・慢性的な渋滞が日常的に発生
・落石安全性の低い道路網
・沿道環境の悪化

事業の進捗状況、残事業の内容等
・坂祝第3トンネル工事等を全面的に展開中
・用地進捗率は約93%（平成16年度末見込み）
・全体の事業進捗率は約43%（平成16年度末見込み）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等
平成19年度に暫定2車線開通予定

施設の構造や工法の変更等
・全体事業費約350億円の中から、約2.5億円のコスト縮減（橋梁から函渠への変更約1.3億円、補強土壁の積極的活用約0.7億円、歩道を本線と分離することによる横断ボックスカルバート延長短縮約0.5億円）を実現
・代替案として考えられる現道幅は、沿道状況より不可能であり、計画変更は困難

対応方針
対応方針決定の理由
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。